

「地福寺日並記」に記録された和光市域の気象・災害

中岡 貴裕

1. はじめに

平成26年6月25日、和光市を集中豪雨が襲ったことは記憶に新しい。熊谷地方気象台が平成26年6月26日付で発表した「平成26年6月25日の大雨に関する埼玉県気象速報」によれば、「解析雨量によると、15時に朝霞市付近で1時間に約110ミリの猛烈な雨を解析した」と報告されている¹。1時間に100ミリ以上もの雨量を観測したとされる豪雨は、和光市域においても床上浸水31棟、床下浸水30棟をはじめ道路冠水等の被害をもたらした²。

さて、当市域はこれまでも水害と全くの無縁であったわけではない。よく知られている明治43年の大水害をはじめ、関東各地に生じた水害の影響は当然和光市域にも及んでいる。また、水害以外にも地震をはじめ多くの自然災害を少なからず経験している。しかし、時とともに災害の記憶は失われていってしまうため、過去の災害については記録された文献資料や聞き取り調査等によって後世に伝えていくより他にない。

本稿は和光市白子に所在する地福寺に残された『地福寺日並記』の記録を基に、明治～大正時代の当市域における気象・災害に関する基礎的情報の一部を提示することを目的とするものである。

2. 地福寺と「日並記」

地福寺は和光市白子2丁目に所在する天台宗の寺院である(図1・写真1)。山号は瑞応山、院号は地藏院と号し、入間郡小仙波村(現川越市)喜多院の末寺とされる³。寺号の由来は、「地藏菩薩は福德円満で、人々の悩みを断ち、すべてのものを養育し開運し

て、福祿寿を授け、父母が子どもを養うように大地の万物を育てる福德があるということから、地福寺という」と言われている⁴。地福寺縁起については『和光市史民俗編』に寺伝が紹介されているので、ここでは省略する。それによれば地福寺は永延年間(987-989年)に尊恵僧正が白子の地に建てた寺であると伝えられる。その後、二代尊勝以降は住職のいない寺であったと伝えられるが、中興の祖とされる尊秀が天文年間(1532-1555)に諸堂を修理し、修興したという⁵。なお、青木忠雄氏が監修した『和光の仏像 - 和光市仏像調査報告書 -』によれば、同寺所蔵銅造地藏菩薩立像は旧本尊と推測され、造立時期は鎌倉時代後期頃に遡るものと推定されている⁶。

本稿で取り扱う「地福寺日並記」は、地福寺の鎌田亮中住職が明治23年7月から大正13年8月に至るまで執筆した日誌類を総称するものである(以下、本稿では「日並記」という)。明治24年5月19日から明治27年1月31日、大正4年3月1日から大正9年7月31日の記録が欠けているものの、その間27年に及ぶ日々の出来事が記されている。「和光市域の生活史の推移を問う場合、この日並記は拠るべき貴重な史料の一つ」とあると評価されているように⁷、「地福寺日並記」には地域史研究にとって多くの有益な情報が残されている。

3. 「日並記」における気象情報

既に述べたように、「日並記」は欠けている期間を除き、ほぼ毎日の出来事が記録されている。何事もなかった日であっても、わずかな例外を除き最低限その日の天気に関する記載があり、市域の気象情報を知るためには大変有益である。また、住職の目に留まった、



図1 地福寺位置図（大日本帝国陸地測量部明治43年測図迅速測図「白子」他を加工して使用）



写真1 地福寺遠景（撮影年代不明）

出典：和光市デジタルミュージアムれきたま



写真2 地福寺（撮影年代不明）

出典：和光市デジタルミュージアムれきたま

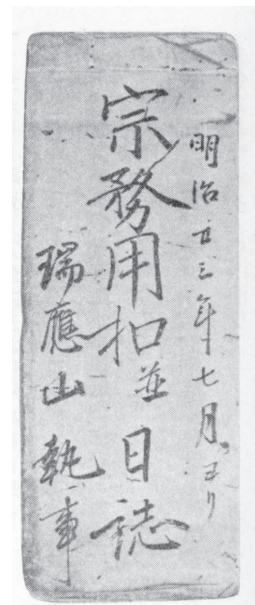


写真3 地福寺「日並記」

出典：和光市史編さん室 1985『地福寺日並記』

又は体感した地震や風水害、火災といった災害の情報について逐一記録されていることが注目される。例えば後述する関東大震災については、具体的な実体験に基づいた記録がなされており、得るべき情報は少なくない。無論、記録者の主観に基づくものではあるが、だからこそ活きた記録であると捉えることもできるだろう。

付表1は、日並記に記された天気の記事を基に、明治23年7月から大正13年8月までの天気を表化したものである。言うまでも無いことだが、記載された天気は定時定点の観測結果ではない。そのため正確さ等について欠ける面もあると思われる。しかし、あくまで本稿は「日並記」の記載内容から気象情報を提示することを目的としていることから、その範囲内における把握の限りであることをお断りしておく。なお、熊谷測候所（熊谷地方气象台）の観測結果については、『新編埼玉県史別編3自然』に「付表3 明治32年～昭和55年の天候」があるのであわせてご参照いただきたい。

4. 「日並記」における災害情報

次に日並記における災害関係の記録を概観してみよう⁸。ここでは自然災害を「風水害」、「地震」、「その他の災害（積雪、旱、火事等）」として便宜上整理することとしたい。

付表2は地福寺日並記に記録された災害等情報について、関係箇所を和光市発行の活字版『地福寺日並記』の本文中から抜き出して掲載したものである。無論、日並記の欠けている期間については記録が無いため記載していない。備考にはそれぞれの災害について『埼玉県の気象災害』、『新編埼玉県史別編3自然』、『日本被害地震総覧599-2012』等の資料から管見の限りで把握できた情報を参考までに示しておいた。なお、本稿中において災害前後の天気について言及する場合は、特に断りを入れない限りは先の付表1を参照するものとする。

以下、付表2の中から特に被害等が確認された災害について個別に事例として紹介する。ただし、紙幅の都合から全ての災害に言及するものではないことを予めお断りしておく。

(1) 風水害関係

①明治23年8月、9月

明治23年8月22日～23日、30日は埼玉県下で暴風雨があり、荒川では入間川等の支流を含め125箇所破堤した⁹。「日並記」の記録では和光市域の直接的な被害についての記録は見られないものの、9月4日に「大井より古谷へ水見舞に行、迂路より行候処田畝一面水ニテヒサ追浸セリ」とあり、その水害の一端をうかがうことができる。

なお、新座郡内の戸数・反別の水災被害状況については、表1に示すとおりである。この内、白子村の被害は当時の大字下新倉しか受けていなかったという¹⁰。

表1 明治23年水害による新座郡内被害一覧

	被害戸数				被害反別（反）		
	満水	流失	無難	合計	田	畑	合計
志木町	28	0	472	500	720	100	820
膝折村	10	0	370	380	800	2	802
打間木村	154	0	208	362	889	1,200	2,089
新倉村	9	0	213	222	203	231	434
白子村	16	0	196	212	226	227	453
計	217	0	1,459	1,676	2,838	1,760	4,598

出典：『和光市史下巻』表5-60を転載

②明治27年8月

明治27年8月10日は、その前夜から雨が降り、「今朝大雨盆ヲ覆ス」という状況であった。翌11日も「雨天、小嵐」であり、その翌12日に「洪水」となり「上新倉入樋破壊」に至っている。

③明治29年9月

「風雨、荒模様なり」と記録された明治29年9月8日から10日にかけて、「風雨」が続いた。結果、10日は「洪水九合」に至っている。この「九合」については、満水を十合として水位を十分割したすると、九合目程度の水位であることを表しているものと考えられる。『新編埼玉県史別編3自然』によれば、

9月7日から12日にかけて豪雨が続いた結果、荒川で41箇所破損があったという¹¹。

④明治30年9月

明治30年9月8日は「雨天終日、雷鳴あり、夜二入り大雨大雷、前二時頃より大嵐」となり、「樹木破損」する被害が生じている。この日は利根川堤防が決壊するほどの大風雨が確認された日であり、市域でも樹木破損以外にも被害が生じていたものと推測できる。

⑤明治35年8月、9月

明治35年8月7～8日にかけて低気圧に伴う大雨が観測される中¹²、「日並記」の8月9日の記録には「大洪水一升水二付、吹上早鐘大騒ぎ之事」と記されている。同年9月9日にも「大洪水出ツ」とあり、再び洪水の記録がある。また、同月28日は台風の襲来に伴い「未明ヨリ暴風雨、境内栗ノ木二本倒ル、竹垣破損あり」と、台風の勢力を語る記録が見られる。

⑥明治37年7月

明治37年7月10日、「暴風雨、木小屋吹倒サル」とあり、翌11日は「曇天、風吹、時々驟雨あり、夜二入り大雷強雨暁二至ル」と記録される。その翌日、「曇天、前ノ田圃ノ川開キ一面海ノ如ク流ル、実ニ四十年来ノ地水なり」とあり、冠水している様子が見える。

⑦明治39年7月

明治39年7月14日には「風雨、此ノ二、三日前ヨリ天候險悪暴風雨の兆アリ」とあり、翌15日には「大雷雨、終日、潦水溢レ大サワギなり」と記される。

同じく7月27日、28日は「風雨」が記録され、その影響により29日には「晴天」だが「大洪水」となっている。

⑧明治40年8月、9月

明治40年は、7月7日～13日にかけて一週間に及ぶ雨天が記録されている。

8月も驟雨や荒模様の天候が確認される中、8月25日に至って「風雨、大洪水諸川筋大害之由」と記され、大洪水の様子が記録されている。この水害は一般的には「明治

40年水害」等と呼ばれる。付表1に見られるように、その直前の期間は8月22日から雨天の記録が続き、その後も断続的に雨天が続いている様子が記録されている。

この明治40年の水害の被害は大きく、利根川・荒川が破堤したことにより広範囲に濁流が押し寄せている。また、8月の水害についての復旧が始まらないうちに、9月に再び台風が襲来し、さらなる被害が引き起こされることとなる。なお、「日並記」には9月18日に「払暁ヨリ大雨風あり、小嵐なり」と記録されているが、この9月の災害状況については記載が見当たらず、詳細はわからない。

『埼玉県の気象災害』によれば、この明治40年の風水害の被害は、埼玉県では死者12人、負傷者11人、行方不明29人、家屋倒壊10戸、流失114戸、浸水17,850戸、破堤約90箇所、浸水面積約2万町歩、農作物損害423万円であったとされている¹³。

⑨明治41年8月

明治41年8月9日から驟雨や荒れ模様、雨天が続き、同月13日に至り「半晴、少雨あり、洪水七、八合出ル」と記録されている。

⑩明治43年8月

明治43年8月は未曾有の大洪水が引き起こされた。この水害は明治時代最大級の洪水と言われ、一般的には「明治43年の大水害」、「明治43年の洪水」等と呼ばれている。この被害について、「日並記」の記録を確認しよう。

付表1に見られるように、8月5日から少雨、8日から大雨が続き、10日は「大雨、小嵐なり、夜二入り暁迄大雨」と記録されている。この翌11日には「晴天」だが、「未曾有大洪水、上新倉土手壊裂土手惣こしの由、午房天王坂崩壊ス」と被害の状況が記されている。13日も再び「大風雨」となり「洪水又増ス」と記される。

この洪水は埼玉県をはじめ、関東地域に水害をもたらしている。表2は埼玉県内の被害状況について、『明治43年埼玉県水害誌』及び『埼玉県の気象災害』の記録を元にまとめたものである。

先に「日並記」の記録で見たとおり、和光市域においても土手が壊裂する等の被害が生じている。「未曾有大洪水」とあるように、亮中住職の記憶の中でもこれまでに無い規模の水害と映ったのであろう。

⑪明治44年6月～8月

明治44年は6月から8月にかけて、雨天が多く記録されている。

6月19日は「夜来雨降、午前七時頃より暴風雨トナリ八時九時ノ交尤モ甚シ、午後より向山新宅初七日回向ニ行、樹木、屋根ノ損害多シ」とあり、台風による暴風の影響が記されている。

7月3日には「雨天、霖雨七、八日ニ涉リ難儀なり」とあるほか、7月26日の「暴風雨」、8月4日には「昨夜来雨間なく降続き今朝強雨盆を覆す、終日荒模様風吹」などの記録をはじめ、「驟雨」も度々確認される。そのような天候の中、8月10日に「曇天、荒模様、午後二時頃より豪雨雷鳴、夜ニ入り尚甚し」とあり、翌11日に至り「雨降、昨初夜より

暁ニ至ル、間断なく豪雨、大出水なり」と記録されている。

⑫明治45年6月・大正元年9月

明治45年6月16日夜から雨が降り始め、17日は「昨夜来引続き強雨間断なし」という状況にあり、翌18日は「晴天」だったものの「小洪水之由」と記録されている。

同年9月は21日未明頃から22日にかけて「大雨」が降り、翌23日は「夜明ケ四時頃より暴風雨、近来ノ荒なり、大雨なり、門、長屋等危ク院内総出、廣吉来援、張ヲカヘ、竹垣総体皆損傷、門前六地藏小屋諸々タオレ、石像三体タオル、十二時頃止ム、晴ル」と記録されるように、非常に強い暴風雨がこのあたりを襲ったようである。小屋もろとも石像物が倒れている様子から、どのような強さの暴風雨であったのかを想像することができる。この暴風は台風によるもので、埼玉県内で多くの被害が生じている¹⁴。

⑬大正2年8月、9月

大正2年8月は上旬頃まで降雨が記録され

表2 明治43年水害による埼玉県内被害状況

種別	郡名	北足立	入間	比企	秩父	児玉	大里	北埼玉	南埼玉	北葛飾	合計	
人の被害状況	壓死	-	-	2	65	7	10	1	-	-	85	
	溺死	24	32	40	10	9	58	51	6	9	239	
	傷	1	2	24	20	6	11	7	2	4	77	
	行衛不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	上記の合計	25	34	66	95	22	79	59	8	13	401	
	管外死体漂着	-	1	-	-	4	5	-	-	1	11	
人以外の被害状況	破堤	144	78	123	-	132	114	35	135	184	945	
	堤防損壊	252	68	171	-	168	184	18	174	367	1,402	
	浸水面積	19,790	13,247	8,011	214	3,918	12,946	19,498	21,227	12,290	111,141	
	山くずれ	-	899	241	1,660	456	73	-	-	-	3,329	
	家屋浸水	床上	11,343	4,892	5,045	294	1,883	8,154	13,009	9,275	5,411	59,306
		床下	2,623	3,330	429	2,099	2,161	3,286	3,017	5,548	2,739	25,232
	住家	全壊	42	107	157	51	17	88	136	24	5	627
		半壊	31	68	42	56	39	71	213	13	15	548
		破損	2,163	3,968	3,122	168	310	620	3,314	460	1,795	15,920
		流失	48	111	171	86	66	254	309	6	1	1,052
	非住家	全壊	62	147	131	20	23	69	129	27	6	614
		半壊	42	48	39	27	37	66	110	42	12	423
		破損	483	2,697	1,126	133	237	554	2,261	272	1,167	8,930
		流失	33	67	55	116	41	118	136	8	5	579
	道路	流失										
		埋没	116	136	485	837	458	1,846	248	71	195	4,392
		破損										
橋	流失	22	86	215	207	272	209	33	23	36	1,103	
	破損	87	53	311	254	282	556	192	178	321	2,234	

人の被害状況については、『明治43年埼玉県水害誌』を元に作成した。
人以外の被害状況については、『埼玉県の気象災害』を元に作成した。

ていないが、中旬頃より雨が見られるようになり、23日未明から26日にかけて雨が降り、27日は「夜来大雨、暁方より豪雨トナリ、東北風加り小嵐ナリシガ」と記録される。8月31日から再び「荒模様」となり、9月1日も「雷鳴大雨沛然止マズ」、翌2日は「昨夜来引続き大雨降、冷氣なり、再度ノ出水なり」とされ、「出水」したことがわかる。「再度」とあるが、直近の記録には「出水」の文字が見当たらない。勝手な憶測は避けるべきだが、あえて推測するのであれば23日未明から27日にかけての雨、豪雨の際に出水していたものとするのが自然であろう。しかし、これは現時点で裏付ける資料を確認していないため推論の域を出ない。10月4日には「柴宮渡船満水風荒シ危険ヲ感ス」とあり、荒川が増水している様子が見える。

⑭大正3年1月、8月、9月

大正3年は、1月14日「午後ヨリ天候険悪、西南ノ暴風雨ヲ交へ大雷鳴一時前、二時過尚止マス、寒中ノ変候近来稀有ノ事なり」とされるように、年明け早々よりこの季節には珍しい雷を伴う暴風雨が記録されている。

同年8月13日に「未明より荒模様、風雨、嵐なり、二時過止ム」と記録され、翌14日は「朝少雨、後晴、暑シ、荒川洪水四合水なり」とあり、荒川が増水する様子が記録されている。さらに同月28日から「驟雨時々降り」、29日は「昨夜来雨降り、好湿なり」としつつも、「午後より東北ノ暴風雨トナリ、夜ニ入り益強く暁ニ至ル、中谷氏夜八時暴風雨中帰ル」とあるように非常に荒れた天候が見られる中、翌30日は「半晴、風吹、荒川洪水前回ヨリ大なり」とある。

さらに9月は11日、12日に「少雨」があり、13日夕刻より雨が「大雨」となり、14日「昨夜来引続き強雨間断なく、十時過ヨリ非常ノ豪雨、庭一面川流をなし、崖崩れ等損害あり、夜ニ入風加り暁ニ到ル」とあるように、「豪雨」によって崖崩れ等が起きていることが記録されている。

⑮大正10年9月

大正10年は水害の記録こそないが、9月4日に「午後より雷雨、六時頃より大雨大降近来ノ大雨なり」とあり、この前後にも雨天が記録されている。

⑯大正11年2月

大正11年2月14日未明より雨が降り、16日に至って「引続き雨降、夜ニ入り風雨トナリ、竹山ノ垣崩壊サル」という被害が確認されている。

⑰大正13年8月

大正13年8月26日「雨天、正午頃より豪雨日暮ニ至ル、近来ノ大雨なり」とあるが、特に被害については記録されていない。

(2) 地震関係

地震についての記載が見られる箇所は55日分（計79回）に及ぶ。以下、大きな災害につながった地震について紹介したい。

①明治27年6月、10月

明治27年6月20日に大きな地震が記録されている。以下、「日並記」本文を引用したい。

「廿日 晴天、午後七時帰院、本日午後二時大地震、近来ノ出来事なり、宝篋塔ノ頭落ツ、墓石大分倒レタリ、東京ハ煉瓦屋土蔵ノ破損、煙筒ノ倒レタルモノ甚多ク、死傷モ余程有之由、夜ニ入り軽震あり」

この地震は東京湾北部を震央地とし、マグニチュードは7.0とされるもので、「東京地震」とも呼ばれる¹⁵。埼玉県では主に南部に被害があったようで、川口・鳩ヶ谷で家屋・土蔵破損、鴻巣・菖蒲・川口・越谷では亀裂から砂泥を噴出、飯能で山崩れ等の被害が生じたものとされている¹⁶。

なお、同年10月8日も「昨夜八時過激震あり」とある。この地震も東京湾北部を震央とし、マグニチュードは6.7を記録している。

②大正10年12月8日

大正10年12月8日には「夜九時半近来ノ大地震アリ」と記録されている。この地震は龍ヶ崎付近を震央とし、規模はマグニ

チュード 7.0 を記録している。

③大正 11 年 4 月 26 日

大正 11 年 4 月 26 日は、「午前十時過大地震アリ十分間フレル、三十年来ノ大地震ノ由、被害ナシ」と記録されている。この地震は浦賀水道付近を震源地とするものであり、熊谷では震度 4 を観測している¹⁷。10 分間の間揺れるほどの地震であったが、日並記で確認する限り、地福寺では大きな被害は無かったようである。

④大正 12 年 9 月 1 日

大正 12 年 9 月 1 日正午直前、関東全域をマグニチュード 7.9 の大地震が襲った。いわゆる「関東大震災（関東大地震）」である。「日並記」はこの様子を次のように記している。

「朝来風雨荒模様、午前十一時四十分俄ニ大地震揺り廻り十四回あり、本堂壁二間崩壊全部ヒビ入り、花瓶大位牌タヲル損害多大なり、墓地石碑三分ノ一タヲレ地福大半タヲル、鎮守ノ鳥居崩レ、新倉ニテ二、三家屋崩レシ由、此夜警戒ノ為メ消防夫総出ニテ終夜警戒、地震ト同時ニ東京方面大火事夜ニ入り益盛なり、焼失、本郷、下谷、神田、日本橋、京橋、本所、深川、大半焼失ノ由」

文字にして 200 字に及ばないが、克明な記録が生々しく当時の様子を伝えている。大正 12 年 10 月「震災罹災状況調」によれば、北足立郡の被害は建物が全壊 2,038 戸、半壊 1,771 戸で、死者 107 人、負傷者 215 人であったと記録されている。その中で、現在の和光市域である新倉村・白子村の被害状況は、新倉村で建物全壊 1・半壊 1、白子村で建物全壊 2・半壊 0、そして両村とも死傷者は 0 であったという¹⁸。埼玉県内の被害のおおよそ 1/2 を北足立内で占めているという中において、比較すれば新倉・白子の被害が少ない。しかし、白子地福寺においてどの程度の揺れがあったかは日並記の記録から一目瞭然である。

なお、日並記にはその後も地震があったことが記されており、度々余震があったことを伝えている。

⑤大正 13 年 1 月 15 日

大正 13 年 1 月 15 日「朝六時激震あり、本堂大位牌投ダサル」とある。丹沢山付近を震源地として強震があり、揺れは和光市域でも「激震」であったことがわかる。

(3) 日照関係

まとまった雨に恵まれずに日照が続くと、農作物の生育等に影響がある。そこで、時には神仏に降雨を共同祈願する行事として「雨乞」が行われる。『白子の民俗』によれば、白子では戦前に雨乞が行われたことが記録されている¹⁹。

「日並記」にはこの「雨乞」の記録を数例確認することができる。これは即ち日照に苦しむ人々を表しているものである。ここでは長期間雨が降っていない日照の記録、そして「雨乞」を行っている記録を抜き出してみよう。

①明治 27 年

明治 27 年 6 月 25 日に「頃日来降雨之なく田植付困難、畑作枯渴せんと」とあり、同月 30 日「早リニテ畑作ニ害アリ」と、降雨が無いことによって畑作に被害が生じていることが記録されている。この年、日照に困った人々は「雨乞」を行うことになる。7 月 27 日の記録には、「雨乞あり、頃日来照り続ク事廿日余り、秋作枯渴セントス、近郷ニテ請雨セサル所ナシ」とあるように、周辺地域においても日照の被害に苦慮していたことがわかる。なお、同年 8 月 10 日も「下新倉一同」が「雨乞」をしている。

②明治 31 年

明治 31 年 8 月 1 日の記録に「村方雨乞の事」とある。この年は、7 月 14 日から 7 月 31 の間、7 月 20 日に 1 日だけ微雨があるものの、それ以外は雨天が確認されていない。そのため、雨を望む声は大きかったものと推測される。なお、8 月 1 日は「后三時より雨降、好湿り、万民悦フ」とあり、幸いにも雨乞当日に降雨が確認されている。

③明治 32 年

明治32年8月24日、25日に「雨乞」の記録が確認される。やはり8月中に雨が少なく、雨を求める声が多かったのだろう。

④明治33年

明治33年8月11日に「雨乞」が行われている。7月20日の雨天を最後に、8月上旬はまとまった雨がなく、雨乞が行われたものと考えられる。

⑤明治36年

明治36年8月18日、「早朝微雨あり」とあるが、同日に「村方雨乞ノ事」とある。

この年はその後も8月19日、20日を除き8月中にまとまった雨には恵まれず、8月29日に「早久シク作物涸渴せり」と記されるように日照の被害がうかがえる。なお、9月5日に「三嶽山ノ御水来リ雨乞之趣」とあり、翌6日には再び「雨乞」の様子が記録されている。

⑥大正3年

大正3年8月7日、「宿并ニ牛房ニテ雨乞ノ事」、翌8日にも「引続き雨乞ノ事」とある。『埼玉県の気象災害』や『新編埼玉県史別編3自然』にはこの年の日照被害については見られないが、二度に及ぶ雨乞は作物への影響を推測することができる。

(4) 積雪

「日並記」には降雪の記録が多々見受けられる。ここではその中で1尺(約30cm)以上の「積雪」の記録が見られる日を抜き出してみよう。

- ①明治32年2月16日
- ②明治36年2月3日
- ③明治37年12月14日
- ④明治39年2月9日
- ⑤明治41年3月11日、4月9日
- ⑥大正元年12月29日
- ⑦大正3年2月9日
- ⑧大正12年2月8日

「日並記」には積雪の後に起きた具体的な被害については記録が見られない。しかし、少なくとも1尺を超える積雪が記録された上

記の後には、通行等に被害が生じていたものと考えてよいだろう。

(5) その他

その他、「日並記」の記す災害等を見てみよう。

①大正11年1月の浅間山噴火

大正11年1月14日の記録には「正午鳴動アリ、アサマ山フン火ノ由」とある。

気象庁ホームページ「浅間山有史以降の火山活動」によれば、この浅間山噴火の概要としては「火砕物降下。噴火場所は釜山火口。連続的に噴石活動、噴煙多量。1920(大正9)年12月14日噴石のため峰の茶屋焼失、軽石多量噴出。12月22日山火事200ha以上。1921(大正10)年1～6月噴火活発、1月18日、6月4日に空振のため山麓で戸障子破損。その他鳴動、降灰。1922(大正11)年1～4月噴火、噴石、降灰。特に1月14日爆発音が東京でも聞こえ、山麓で空振のため戸障子破損。」とされている²⁰。東京でも聞こえたという爆発音は、確かに地福寺回りでも「鳴動」として確認されたことがよくわかる。

②明治43年5月の猩紅熱流行

その他、水害や地震等の自然災害ではない、流行病の記録についての記録があるので紹介しておきたい。

明治43年5月12日の記録に、「本日大清潔法執行、宿中大騒キナリ、猩紅熱病死患者二、三名アリシニ依ル」とある。猩紅熱(しょうこうねつ)は、A群溶血性レンサ球菌(溶連菌)の感染により起こる感染症である。現在は抗生物質の服用により比較的容易に治療が可能となっているが、かつては人々に恐れられた病気の一つであった。「日並記」の記録からは、猩紅熱の流行によって地域が混乱する状況がうかがえる²¹。

3 まとめにかえて

以上、地福寺の「日並記」から見た和光市

域の気象・災害情報等について概観した。冒頭で述べたとおり、住職の実体験に基づく記録は当時の様子を生々しく語っている。今回は筆者の力量不足と時間的制約により、「日並記」から気象・災害情報を抜き出し、若干のまとめとしたに過ぎない。宇佐美龍夫氏が梅原末治氏の講演を引き合いに指摘するように、「古い日記に地震記事がないからといって、地震がなかったといえないのはごく当たり前のこと」である²²。その他の自然災害についても当然同様に考えなければならない。「日並記」が記録していない時代の気象・災害情報をはじめとした和光市域周辺に関する災害史の蓄積については、今後他の資料を掘り起こし、少しずつ積み重ねていくより他にない。この点については今後の課題としたい。

もちろん、過去と現在では地形的にも大きな変化があるため、一概に過去の災害をもって現在を予想することは難しい。また、災害を引き起こす自然現象の予想が難しいのは事実である。しかし、そうであったとしても、地域の歴史を振り返る地道な積み重ねが「想定外の災害」を減らすことの一助となれば幸いである。

最後ととなりましたが、貴重な記録を残された故鎌田亮中氏、そして地福寺の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。本稿執筆にあたり、資料収集には和光市図書館に協力をいただき、校正作業にあたっては田中由美氏・吉村理恵子氏の協力を得ました。その他にも多くの方々のご協力を賜りました。お名前は省略させていただきますが、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

あわせて各地で自然災害に見舞われた多くの方々に心からお見舞い申し上げます。

【註】

1. 「平成 26 年 6 月 25 日の大雨に関する埼玉県気象速報」平成 26 年 6 月 26 日 熊谷地方気象台
2. 「和光市報道発表資料平成 26 年 7 月 4 日付 6 月 25 日（水）大雨による市内の被害状況（第 4 報）」

和光市ホームページ（平成 26 年 11 月 18 日筆者確認）

3. 『和光市史民俗編』 p679-684
4. 瑞応山地蔵院地福寺 2011 『地福寺 縁起とその歴史（リーフレット）』
5. 瑞応山地蔵院地福寺 前掲書
6. 和光市教育委員会 1979 『和光市のむかし第 7 集 和光の仏像（和光市仏像調査報告書）』 p17
7. 渡辺隆喜 1985 「解説」『地福寺日並記』和光市
8. 災害対策基本法第 2 条第一項によれば、災害とは「暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。」とされている。
9. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970 『埼玉県の気象災害』 p40
10. 和光市 1988 『和光市史通史編下巻』 p212
11. 埼玉県 1986 『新編埼玉県史 別編 3 自然』 p187
12. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970 『埼玉県の気象災害』 p63
13. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970 『埼玉県の気象災害』 p65
14. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970 『埼玉県の気象災害』 p72
15. 埼玉県 1986 『新編埼玉県史 別編 3 自然』 p69
16. 埼玉県 1986 『新編埼玉県史 別編 3 自然』 p62
17. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970 『埼玉県の気象災害』 p186
18. 和光市 1984 『和光市史史料編三近代・現代』 No.126
19. 『白子の民俗』には雨乞いについて次のように記されているので参考に引用しておく。
「水が極端に不足すると雨乞いをした。戦前、牛房、向山、越後山の白子 3 区で、井の頭の弁天さんへ朝 3 時頃出かけ、青竹を切ったものの中に水ももらい、またお札をうけて帰ってきて、竹笹に水をかけて、太鼓を打ちならしながら田畑をまわった

という。同様に、市城でも、神社（社名不詳）の水をもらってきて、それを氏神にあげて、人々は太鼓をたたきながらムラの中を練って歩いたという。また雨乞いのために武州御嶽の札をもらってくることもあった。雨乞いの歌というものもあったというが、その歌詞等は明らかでない。」（和光市史編さん室 1982『白子の民俗』P51）

20. 気象庁ホームページ「浅間山有史以降の火山活動」

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/306_Asamayama/306_history.html

21. なお、清潔法とは「伝染病予防のため家屋・溝渠・芥溜・便所などの清掃を行うこと」であり、市町村や衛生組合により実施されたものである。（朝尾直弘・宇野俊一・田中琢 1997（2004 再版）『角川新版日本史辞典』角川書店）

22. 宇佐美龍夫ほか 2013『日本被害地震総覧 599-2012』東京大学出版会

【参考文献】

宇佐美龍夫ほか 2013『日本被害地震総覧 599-2012』東京大学出版会

葛飾区郷土と天文の博物館2007『諸国洪水川々満水 - カスリーン台風の教訓 - 』

葛飾区郷土と天文の博物館2012『葛飾区制施行80周年記念特別展図録 東京低地災害史 地震、雷、火事？・・・教訓！』

熊谷測候所1955『埼玉縣氣象累年報 明治30年～昭和29年』

熊谷地方気象台百年史編集委員会1996『埼玉県の気象百年 - 熊谷地方気象台創立百年記念 - 』

埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台1970『埼玉県の気象災害』

埼玉県1986『新編埼玉県史 別編3 自然』

瑞應山地蔵院地福寺2011『地福寺 縁起とその歴史（リーフレット）』

利根川文化研究会2004『利根川荒川事典』(株)国書刊行会

蓮田市文化財展示館2014『2014企画展 「災害と蓮田」-太古から様々な災害と向き合った人々-』
蓮田市教育委員会

飯能市郷土館 2013『飯能方面湖水の如し - 失わ

れる災害の記憶 - 』

宮瀧交二2002「埼玉考古学史点描・1 和光市白子・地福寺の『お石神様』」『あらかわ』第5号
あらかわ考古談話会

和光市1983『和光市史 民俗編』

和光市1984『和光市史 史料編三近代・現代』

和光市1988『和光市史 通史編下巻』

和光市教育委員会1979『和光市のむかし第7集 和光の仏像（和光市仏像調査報告書）』

和光市史編さん室1982『白子の民俗』和光市

和光市史編さん室1985『地福寺日並記』和光市

なかおか たかひろ（和光市教育委員会）

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴 半：半晴・半曇 少：少雨・微雨・細雨 *：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰 ★：荒模様・吹降・風雨・嵐 ▲：雹・雨混じり雹
 ◎：曇天・曇り ●：雨・大雨・豪雨 ⚡：雷 ☆：驟雨 †：大霜・霜

年	月	日																															月別各天気日数										左記月別天気の種類										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	⚡	*	☆	★	†		▲									
大正6	1	/																															/										/										
	2																																																				
	3																																																				
	4																																																				
	5																																																				
	6																																																				
	7																																																				
	8																																																				
	9																																																				
	10																																																				
	11																																																				
	12																																																				
大正7	1	/																															/										/										
	2																																																				
	3																																																				
	4																																																				
	5																																																				
	6																																																				
	7																																																				
	8																																																				
	9																																																				
	10																																																				
	11																																																				
	12																																																				
大正8	1	/																															/										/										
	2																																																				
	3																																																				
	4																																																				
	5																																																				
	6																																																				
	7																																																				
	8																																																				
	9																																																				
	10																																																				
	11																																																				
	12																																																				

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

- ：晴天・晴・快晴 半：半晴・半曇 少：少雨・微雨・細雨 *：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰 ★：荒模様・吹降・風雨・嵐 ▲：雹・雨混じり雹
 ◎：曇天・曇り ●：雨・大雨・豪雨 㐀：雷 ☆：驟雨 上：大霜・霜

年	月	日																															月別各天気日数											左記月別天気の傾向															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	㐀	*	☆	★	上	▲																
大正12	1	○◎	○	○	○	○	○	○	○◎●	●	半	○	◎	○	少●	半	○	○	○	◎	半	半	少	少*	*	○	○	○	○	半	○	19	3	5	3	3	0	4	0	0	0	0	0	0															
	2	○	○	○	半	○	◎*	◎*	○	○	○	半	◎	半	◎◎	●	◎*	○	○◎●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	11	5	6	6	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0														
	3	○	○	少○	○	○	◎	◎	○	少	○	◎少	●	○	○	少	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	20	4	1	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
	4	○	◎◎	●	半	◎*	◎*	半	◎*	○	半	◎	◎	半	半	○	半少	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	10	5	9	6	7	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0											
	5	半㐀少	半	少	◎少	◎	◎◎	◎少	●	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7	8	9	13	8	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0											
	6	◎	◎	◎	半	○	半	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7	14	5	9	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0										
	7	少	◎	◎	○	◎◎	●	半	◎◎	*	少	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	11	7	2	7	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0										
	8	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26	3	3	5	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
	9	★	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	18	5	2	6	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	10	少	半少	◎少	○	半	●	少	半	半	◎*	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	12	5	10	2	8	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	11	◎●	少◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	15	3	8	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	12	○	○	◎	○	○	◎	◎	半	半少	少	少○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	16	5	8	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
大正13	1	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18	1	10	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	2	半*	*◎	半	半	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	15	4	8	4	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	3	*	○	◎	半	半	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	20	3	6	1	4	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	4	○	◎◎	◎少	◎少	◎	◎◎	◎	○	半	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	13	12	3	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	5	◎少	◎	◎	◎	◎少	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	20	10	0	8	2	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	6	半●	●	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	14	12	3	3	11	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7	○	◎	少	少	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	24	8	1	0	5	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8	◎	◎	◎	◎	半*	*	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	18	8	1	1	7	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9																																																										
	10																																																										
	11																																																										
	12																																																										

付表2 地福寺日並記から見た和光市域周辺災害史年表

備考に記載したく>内の丸数字は出典を示し、その内容は次に示すとおりである。なお、各文献の詳細（執筆者、出版年等）については、本文中の参考文献に示す。

①『埼玉県の気象災害』、②『新編埼玉県史別編3自然』、③『日本被害地震総覧599-2012』、④『和光市史下巻』、⑤『和光市史史料編3近代現代』

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治23年	1890	8月22日	雨天、□あり夜ニ入り小嵐徹夜			
明治23年	1890	8月29日	雨天、風あり夜ニ入り小嵐となる			8月22～23日、30日、暴風雨洪水、荒川では入間川などの支流を含め破壊125箇所。県下で死者16人、負傷者1人、家屋の流失702軒、破損倒壊2,375軒、農作物の収穫は皆無となった。
明治23年	1890	8月30日	吹降ニテ困難ヲ極メリ			<①>
明治23年	1890	9月4日	大井より古谷へ水見舞に行、迂路より行候処田畝一面水ニテヒサ道浸セリ			被害は新倉村田地20%・畑地15%、白子村田地23%・畑地8% <④>
明治23年	1890	9月11日			夜半成増ニ失火アリ	
明治24年5月19日から明治27年1月31日まで欠本のため不明						
明治27年	1894	4月16日			昨夜十二時過、新田万善方へ放火有之、暫時ニシテ酒やへ延焼し、留吉魚や、茶店、油や烏有ニ属シ、万善妻ヤス殿土蔵へ入り焼死、外ニ浅久保大工某大負傷 未明ニ先住渡辺氏へ放火有之、隣家友吉氏延焼ス、利左衛門迎ニ小山へ行、道違ニテ逢ハス、午后帰ル、先住宅へ災火ノ前盗賊巴ニ入ントセシ由	
明治27年	1894	4月14日		夜明ニ強震あり		
明治27年	1894	6月20日		本日午後二時大地震、近來ノ出来事なり、宝篋塔ノ頭落ツ、墓石大分倒レタリ、東京ハ煉瓦屋土蔵ノ破損、煙筒ノ倒レタルモノ甚多ク、死傷モ余程有之由、夜ニ入り軽震あり		東京湾北部 14時04分（経度：139.8° E、緯度：35.7° N、規模：M7.0）<②、③>
明治27年	1894	6月25日			頃日来降雨之なく田植付困難、畑作枯渴せんとす	
明治27年	1894	6月30日			旱リニテ畑作ニ害アリ	
明治27年	1894	7月27日			雨乞あり、頃日来照リ続ク事廿日余り、秋作枯渴セントス、近郷ニテ請雨セサル所ナシ、夕刻より雨降	
明治27年	1894	8月5日			下新倉一同雨乞ヲナス	
明治27年	1894	8月10日	昨夜三時頃より降出、今朝大雨盆ヲ覆ス			
明治27年	1894	8月11日	雨天、小嵐なり			8月9日より暴風雨、荒川、利根川、入間川、江戸川で堤崩壊、破損あり。<①>
明治27年	1894	8月12日	洪水上新倉入種破壊せし由			
明治27年	1894	10月8日		昨夜八時過激震あり		東京湾北部 20時30分（経度：139.8° E、緯度：35.6° N、規模：M6.7）<②、③>
明治28年	1895	1月23日		地震あり		
明治28年	1895	1月31日			此夜三時新倉宮久保ニ出火あり	
明治28年	1895	2月19日			后五時頃より雪降積ル事三寸許	
明治28年	1895	3月2日			雪降五寸許	
明治28年	1895	3月25日			吹上ニ火事有之	
明治28年	1895	5月17日			降雨暫らくなく葺物植物ハ困却ス	
明治28年	1895	6月10日		夜十二時頃地震あり		
明治28年	1895	7月25日	昨夜来暴風雨なりしが前十一時頃止ム			
明治28年	1895	9月8日	驟雨大嵐あり小嵐なり暫時ニシテ止ム			
明治28年	1895	10月11日		午后三時頃地震あり		
明治28年	1895	11月28日		朝地震あり		
明治29年	1896	1月9日		夜十時地震あり		
明治29年	1896	1月12日		夜十時地震あり		
明治29年	1896	1月20日			午後俄ニ大風雪ヲ降ス	
明治29年	1896	2月19日			赤塚ニ失火あり	
明治29年	1896	3月12日			後に雪降、積ルコト五、六寸	
明治29年	1896	8月9日			日蝕午後一時三十分より三時三十分ニ至る八分四厘欠なり	
明治29年	1896	8月31日	昨夜雨風激しく小嵐今曉ニ至ル			
明治29年	1896	9月8日	風雨、荒櫻様なり			
明治29年	1896	9月9日	風雨			
明治29年	1896	9月10日	風雨、洪水九合のよし			9月7日～12日、豪雨により荒川41箇所破損。<②>
明治30年	1897	1月14日			大雪、尺余、近來ノ大雪なり	
明治30年	1897	2月20日	未明地震あり		昨夜来大雪、積ルコト八、九寸	仙台沖 5時50分（経度：141.9° E、緯度：38.1° N、規模：M7.4）<③>

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記載から分かる情報）
明治30年	1897	7月14日	夕刻より大雷雨、近來ノ大降なり			7月13～15日、出水により耕地浸水、若干の被害あり。＜①＞
明治30年	1897	8月5日		前十時過地震あり		仙台沖 9時10分（経度：143.3° E、緯度：38.3° N、規模：M7.7）＜③＞のことを指すか。
明治30年	1897	9月8日	雨天終日、雷鳴あり、夜ニ入り大雨大雷、前二時頃より大嵐トナル、樹木破損あり			9月8～10日暴風雨、利根川堤防決壊大出水、＜②＞北足立郡でも浸水あり。＜①＞
明治30年	1897	9月9日	今晝嵐止ム			
明治31年	1898	4月23日		前九時地震あり		宮城県沖 8時37分（経度：142.0° E、緯度：38.6° N、規模：M7.2）＜③＞のことを指すか。
明治31年	1898	5月25日		払晝地震あり		
明治31年	1898	7月16日			御庵ニ出火あり見舞ニ行	
明治31年	1898	8月1日			村方雨乞の事、后三時より雨降、好濕り、万民悦フ	
明治31年	1898	8月11日		夕刻地震あり		
明治31年	1898	8月27日	大水八合水ノ由			
明治31年	1898	9月6日	上ケ（マ）雨終日降、夜ニ入り大嵐トナル			暴風雨洪水。利根川、荒川などの諸川氾濫。死者4人、負傷者11人、家屋全壊140戸、半壊144戸、浸水13,765戸等の大被害となった。＜①＞
明治31年	1898	9月21日			昨夜十一時過中宿又一方物置より出火、一棟焼失、山中男女蔵の宅危かりし	
明治31年	1898	9月27日		夜半地震あり		
明治31年	1898	11月7日		昨夜地震あり		
明治32年	1899	2月16日			昨夜より雪降六、七寸、終日不止積ル、一尺余ニ至ル	
明治32年	1899	7月10日	雨天、終日、荒川満水ノ由			
明治32年	1899	8月24日			雨乞之事	
明治32年	1899	8月25日			雨乞ノ事	
明治32年	1899	8月29日	暴風雨、好濕りなり、后四時風止			
明治32年	1899	9月7日	雨天、后三時頃より大雨、小嵐なり			
明治32年	1899	10月7日	大雨、后三時頃ヨリ暴風雨			
明治32年	1899	10月19日	瀧坂崩レ土取方付ノ事			10月4日～7日大雨、7日台風が東京・熊谷を通る。＜②＞
明治32年	1899	12月18日			前十時頃より雪トナリ積ルコト三寸許	
明治33年	1900	1月29日			昨夜大雪積ルコト八寸余、近來ノ大雪なり	
明治33年	1900	5月12日		前三時地震あり		宮城県北部 2時23分（経度：141.1° E、緯度：38.7° N、規模：M7.0）＜③＞のことを指すか。
明治33年	1900	5月15日		前七時過地震あり		
明治33年	1900	8月11日			雨乞ノ事	
明治33年	1900	9月28日	暴風雨、后一時止ム			台風による暴風雨。最大風速31.7m/s。＜①＞
明治34年	1901	2月7日			雪降、積ルコト三寸	
明治34年	1901	4月22日		夜地震あり		
明治34年	1901	7月13日			晴天、久々ノ晴レニテ諸人ノ悦極りなし	
明治34年	1901	12月26日	昨夜来暴風雨、本堂突然雨漏あり、蓋シ本棟ト下リ棟取付ノ所ならん、前九時頃雨止ム			
明治35年	1902	1月12日			前十時頃坂トノ清太郎物置より出火、一棟ニテ鎮火ス	
明治35年	1902	1月22日			昨夜来降雪、積ルコト五、六寸	
明治35年	1902	8月9日	大洪水一升水ニ付、吹上早鐘大騒き之事			8月7～8日にかけて大雨（低気圧）。秩父では237mmの雨量＜①＞
明治35年	1902	9月9日	大洪水出ツ			9月7～8日にかけて台風による暴風雨。＜①＞
明治35年	1902	9月28日	未明ヨリ暴風雨、境内栗ノ木二本倒ル、竹垣破損あり、日暮風未タ止マズ			9月22～28日にかけて台風（二つの台風）による暴風雨。＜①＞
明治36年	1903	1月31日			曇天、後雪降リトナル、積ル五寸	
明治36年	1903	2月3日			夜明より雪降、積ルコト尺余、近來ノ大雪なり	
明治36年	1903	2月4日			夜三時瀧河原銀蔵方失火小家焼失	
明治36年	1903	2月8日	雨天、大宮より大久保良俊外三名同道芝へ寄、夕刻帰院、悪路泥濘困難ヲ極ム			
明治36年	1903	2月9日			夕刻七時団子や弥七方物置より出火、一棟焼失	
明治36年	1903	2月12日			夕刻より雨降り夜ニ入り雪トナル、積ル五寸	
明治36年	1903	5月26日			后三時より大雷雨、所沢最寄電害アリシ由	県は入間郡内の電害に救助金支出。＜①＞
明治36年	1903	6月5日			昨日赤羽停車場附近火事有之、戸敷二百余軒焼失ノ由	
明治36年	1903	7月1日		前九時地震アリ		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治36年	1903	7月9日	雨降、后暴風雨			
明治36年	1903	8月18日			晴天、早朝微雨あり、村方雨乞ノ事	
明治36年	1903	8月29日			晴天、風あり、旱リ久シク作物過枯せり	
明治36年	1903	9月5日			晴天、三嶽山ノ御水来リ雨乞之趣	
明治36年	1903	9月6日			曇天、雨乞ノ事、夕刻雷鳴アリ	
明治36年	1903	9月23日	雨天、暁より大雨風あり、后四時止ム、堂棟より雨漏ス			9月22～23日にかけて台風による暴風雨。19日から雨天あり。19～23日の雨量は県内では浦和の278mmが最も多かった。<①>
明治36年	1903	10月2日	夜来大風雨			10月1～2日にかけて低気圧による大雨。<①>
明治36年	1903	10月6日			此夜月蝕、八歩七厘	
明治37年	1904	2月17日			昨夜雪降、積ル三寸	
明治37年	1904	3月17日			日蝕、金環蝕なり	
明治37年	1904	3月30日			今暁吹上源藏馬屋より失火、馬一頭焚死ノ由	
明治37年	1904	4月24日			夜十二時過吹上森田方物置より出火、老翁八十才才焚死	
明治37年	1904	6月7日		后四時過地震あり		
明治37年	1904	7月10日	暴風雨、木小屋吹倒サル			
明治37年	1904	7月11日	曇天、風吹、時々驟雨あり、夜ニ入り大雷強雨暁ニ至ル			
明治37年	1904	7月12日	曇天、前ノ田圃ノ川開キ一面海ノ如ク流ル、実ニ四十年來ノ地水なり			
明治37年	1904	8月6日			百向水車焼失ス	
明治37年	1904	9月17日	昨夜来暴風雨			9月16～21日にかけて、台風と熱帯低気圧による大雨。<①>
明治37年	1904	12月13日			后四時頃より雪トナル、積ルコト五寸、初雪なり	
明治37年	1904	12月14日			昨夜来大雪終日止マズ、日暮ニ至リ殆ント尺余積ル	
明治38年	1905	1月3日			夜十時過坂上金三郎方物置ヨリ出火、肥馬屋共ニ棟焼失、一時間後坂清方ヨリ出火、重屋仕事場迄焼失	
明治38年	1905	6月20日	霖雨六、七日ニ渉リ大麥、小麦萌芽シ困難ス			
明治38年	1905	10月12日			昨夜十二時過宿山下小家火災有之	
明治38年	1905	11月17日			前十一時頃宿上ノ床場ヨリ出火、半焼ニテ鎮火ス	
明治38年	1905	12月30日			今朝雪積ル事五寸、初雪ナリ	
明治39年	1906	1月24日			雪降積ルコト六寸、近來ノ大雪なり	
明治39年	1906	2月9日			半夜ヨリ降雪、終日不止、積ル尺余、近年ノ大雪なり	県の南部では特に大雪となり、翌10日10時の積雪は浦和で22cm。<①>
明治39年	1906	2月23日		夕七時半地震ス		安房沖 18時49分（経度：139.8° E、緯度：34.8° N、規模：M6.3）<③>のことを指すか。
明治39年	1906	2月24日		前八時地震アリ		東京湾 9時14分（経度：139.75° E、緯度：35.45° N、規模：M6.4）<③>のことを指すか。
明治39年	1906	3月3日			昨夜来雪降、積ルコト三寸、正午止ム	
明治39年	1906	4月5日			夜九時過牛房幾造方物置焼失、類火なし	
明治39年	1906	6月14日			午前十一時過坂上かみや小屋より出火、一棟焼失見舞二行	
明治39年	1906	7月14日	風雨、此ノ二、三日前ヨリ天候険悪暴風雨の兆アリ			
明治39年	1906	7月15日	大雷雨、終日、潦水溢シ大サワギなり			7月12～17日にかけて、低気圧と南東気流による大雨。<①>
明治39年	1906	7月29日	大洪水			7月25～28日にかけて、台風による大雨。<①>
明治39年	1906	8月24日	午後ヨリ大風雨、夜十一時ニ至ル			8月22～24日にかけて、台風による大雨。<①>
明治39年	1906	12月22日			前十時新屋敷物置より出火	
明治40年	1907	1月3日			昨夜来雪降、今朝積る事三寸	
明治40年	1907	2月17日			前十一時頃、角仙方出火、直ニ消留ム、折節風吹近所大ニ噪グ	
明治40年	1907	8月15日	小嵐之事			
明治40年	1907	8月16日	前日ニ続き暴シ模様なり			
明治40年	1907	8月25日	風雨、大洪水諸川筋大害之由			明治40年の水害
明治40年	1907	8月27日	本日ニテ雨天八日ニ渉ル			8月22～28日にかけて台風による大雨。24日大洪水となる。
明治40年	1907	8月28日	払暁ヨリ豪雨、前八時頃ヨリ晴天トナル			<①>、②>
明治40年	1907	9月18日	払暁ヨリ大雨風あり、小嵐なり			
明治40年	1907	9月22日		暁五時地震あり		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記載から分かる情報）
明治40年	1907	11月22日		夜二時半地震あり驚愕ス		2時17分頃強い地震あり。震央は東京から浦和を経て熊谷に至る利根川西側の低湿地帯。<①>
明治41年	1908	1月6日		昨夜零時廿五分地震あり		
明治41年	1908	2月8日			今晚、新倉ノ藤四郎方出火	
明治41年	1908	3月11日			夜来大雪、積ルコト一尺弱、近來春雪ノ著シキモノなり	
明治41年	1908	4月9日			夜来大雪、今朝積ルコト尺余、近來稀有出来事なり、終日止マス、夕刻より雨トナル	県下に晩雪としては大雪。住宅の倒壊等の被害もあった。大宮・浦和間で電柱が線路に倒壊したため列車は朝から昼過ぎまで不通となる等の被害もあった。<①>
明治41年	1908	6月8日			午後一時過雷鳴電ヲ降ス、大サ径七、八分ヨリ一寸三分位ニ、近來ノ珍事なり、三時過又降雷、前回より稍小ナレドモ降ル量ハ多シ	常居・大宮・越ヶ谷を結ぶ線と秩父郡大滝・所沢を結ぶ線の間に降雷。大きさは指頭大で、大きいものは直径1寸5〜6分程度。新倉にも農作物の被害があった。<①>
明治41年	1908	7月16日	朝来大雨、夜ニ入りて又豪雨、近來ノ大降なり			低気圧による大雨。<①>
明治41年	1908	8月7日	午後五時頃より大驟雨			
明治41年	1908	8月13日	半晴、少雨あり、洪水七、八合出ル			8月10〜12日の大雨<①>の影響か。
明治41年	1908	12月28日		早夜地震あり		山梨県中部 17時08分（経度：138.65° E、緯度：35.6° N、規模：M5.8）<③>のことを指すか。
明治42年	1909	1月10日			昨夜来雪降、三寸積リ十時頃止ム	
明治42年	1909	1月14日			今朝雪積三寸	
明治42年	1909	1月18日			雪降、積ル三寸余	
明治42年	1909	3月17日			昨夜来大雪、積ル四寸余、正午頃止ム	
明治42年	1909	3月26日			夕刻より雪降積ル、三寸許リ	
明治42年	1909	7月3日		朝六時強震あり		東京湾西部 5時54分（経度：139.8° E、緯度：35.5° N、規模：M6.1）<③>
明治42年	1909	8月6日	未明大驟雨あり			
明治42年	1909	12月11日			夜八時半赤塚ニ出火アリ	
明治43年	1910	1月1日		午後四時小地震アリ		
明治43年	1910	1月12日			今朝雪、積ルコト四寸余	
明治43年	1910	1月26日			昨夜来雪降、積ル三寸余	
明治43年	1910	2月13日		今晚三時地震あり		
明治43年	1910	2月17日			朝来雨降、後雪トナリ積ル事二寸許リ、夕刻止ム	
明治43年	1910	3月12日			昨夜来大雪降、十一時積ルコト八、九寸	
明治43年	1910	5月12日			本日大清潔法執行、宿中大騒キナリ、猩紅熱病死患者二、三名アリシニ依ル	
明治43年	1910	5月19日			本日ハレー彗星地球ニ近接ノ趣、無事なり	
明治43年	1910	8月8日	大雨			明治43年の水害 8月1〜16日、2個の台風と低気圧の停滞による大風で県下に大水害。<①>、②>
明治43年	1910	8月9日	大雨			
明治43年	1910	8月10日	大雨、小嵐なり、夜ニ入り晝迄大雨			
明治43年	1910	8月11日	晴天、未曾有大洪水、上新倉土手決裂土手惣こしの由、牛房灰玉坂崩壊ス			
明治43年	1910	8月13日	大風雨、洪水又増ス			
明治43年	1910	8月14日	風雨、棚経困難、越後山七軒分行クコト能ハス			
明治43年	1910	9月2日	吉谷へ洪水見舞ニ行			
明治43年	1910	9月18日	晴天、久しブリニなり			
明治43年	1910	10月25日		夜明ケ三時半地震あり		3時22分頃地震。熊谷では時計が止まったという。<①>
明治44年	1911	1月11日			昨夜来雪降、二寸許リ	
明治44年	1911	1月20日			昨夜来降雪、正午積ルコト五寸余	
明治44年	1911	3月17日			昨夜来雪降、今朝積ルコト三寸	
明治44年	1911	3月31日			今晚四時鈴木近傍より出火、大騒キナリ	
明治44年	1911	5月28日			午前二時少し前米安水車より出火、局ノ晒し工場并倉ノ上屋焼失	
明治44年	1911	6月19日	夜来雨降、午前七時頃より暴風雨トナリ八時九時ノ交尤モ甚シ、午後より向山新宅初七日回向ニ行、樹木、屋根ノ損害多シ			台風による暴風雨。<①>
明治44年	1911	6月28日	夜来暴風時々雨ヲ交フ			
明治44年	1911	6月29日	昨夜来雨降			
明治44年	1911	6月30日	強雨降続く			
明治44年	1911	7月3日	雨天、霽雨七、八日ニ滲リ曇儀なり、且冷氣東風模様なり			
明治44年	1911	7月4日	昨夜来間断なく豪雨、夕刻漸く止ム			

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記載から分かる情報）
明治44年	1911	7月26日	夜来雨ノ暴風雨、二、三時ノ頃最も甚し			7月25～26日、台風による暴風雨。<①>
明治44年	1911	8月4日	昨夜来雨間なく降続き今朝強雨盆を獲ず、終日荒模様風吹			8月4～5日、台風による暴風雨。<①>
明治44年	1911	8月10日	曇天、荒模様、午後二時頃より豪雨雷鳴、夜ニ入り尚甚し			
明治44年	1911	8月11日	雨降、昨初夜より晝ニ至ル、間断なく豪雨、大出水なり			8月8～10日、前線による大雨。<①>
明治44年	1911	8月21日		午後四時半地震アリ		
明治44年	1911	9月11日			夜九時牛房村田新五郎出火全焼、赤塚ニモ出火アリ	
明治44年	1911	9月16日		午後地震アリ		
明治44年	1911	9月17日		午前地震アリ		
明治44年	1911	11月5日		午後六時地震アリ		
明治44年	1911	12月24日			霜甚シ	
明治45年	1912	2月4日			今朝雪、積ル事三寸許	
明治45年	1912	3月13日			北風雪交り雨降後雪トなり積ル事二寸許リ	
明治45年	1912	6月17日	昨夜来引続き強雨間断なし			
明治45年	1912	6月18日	晴天、小洪水之由			
明治45年	1912	7月30日			成増ノ田中倉次郎居宇午後五時出火す	
大正元年	1912	8月14日	午後五時頃ヨリ大雷雨、好湿リ、皆大ニ喜ぶ			県の東部から南部を中心に強い雷雨となる。県下で降雹、旋風の被害が生じたところもあった。<①>
大正元年	1912	9月1日	昨夜来風雨、小嵐なり、午前十時頃大雨なり、終日止まず			
大正元年	1912	9月23日	夜明ク四時頃より暴風雨、近来ノ荒なり、大雨なり、門、長屋等危ク院内総出、廣吉来援、張ヲカへ、竹垣総体皆損傷、門前六地蔵小屋諸々タオレ、石像三体タオル、十二時頃止ム、晴ル			9月21～23日、台風による暴風雨。県下で死者6人、負傷者31人、家屋の全壊が950戸、半壊1652戸をはじめ、強風被害が全県にわたって著しかった。<①>
大正元年	1912	12月23日			晝来濃霧、十一時晴、近来ノ奇現象なり	
大正元年	1912	12月29日			昨夜来大雪、本日終日止マス、積ルコト尺余、初雪ノ大雪なり	
大正2年	1913	2月21日			廿日午前一時東京神田三崎町より出火、三千六百余戸焼尽ノ懸	
大正2年	1913	5月22日		東京滞在、朝強震あり		
大正2年	1913	5月29日		午後七時過地震あり		
大正2年	1913	8月27日	夜来大雨、晝方より豪雨トナリ、東北風加リ小嵐ナリシガ、午後二時頃風静ナレトモ未ダ晴レズ			8月26～27日、台風による暴風雨。県下で死者16人、負傷者19人、住家の全壊60戸、半壊115戸、流失115戸、破堤155か所をはじめ、多くの被害があった。<①>
大正2年	1913	9月1日	少雨、十時雷鳴大雨沛然止マス			
大正2年	1913	9月2日	昨夜来引続き大雨降、冷気なり、再度ノ出水なり			
大正2年	1913	10月4日	紫宮渡船満水風荒シ危険ヲ感ス、			
大正2年	1913	12月16日			初雪降、大雪なり、夕刻積ル事八寸	
大正3年	1914	1月14日	午後ヨリ天候陰悪、西南ノ暴風雨ヲ交ヘ大雷鳴一時前、二時過尚止マス、寒中ノ変候近来稀有ノ事なり			
大正3年	1914	1月16日			夜十一時上新倉漆台ニ失火アリ、七棟焼失ノ由	
大正3年	1914	2月9日			昨夜より引続き雪降、今朝積ル事尺余、十時頃より晴ル	
大正3年	1914	2月23日			昨夜来雪降、積ルコト六寸、夕刻止ム	
大正3年	1914	3月26日			昨夜雷鳴雪交リ大雨降、終日少雨、寒甚し、夜ニ入り雪交リ降	
大正3年	1914	4月8日			雨天、時々驟雨あり、寒風吹、東京地方五厘銭大ノ雹ニ回降候趣	
大正3年	1914	5月20日		夜十一時過地震あり		
大正3年	1914	6月9日	昨夜来雨降、七時頃大強雨			
大正3年	1914	8月7日			晴天、宿井ニ牛房ニテ雨乞ノ事	
大正3年	1914	8月8日			晴天、引続き雨乞ノ事	
大正3年	1914	8月13日	未明より荒模様、風雨、嵐なり、二時過止ム			台風による暴風雨。県下で死者5人、負傷者6人、住家の全壊26戸、半壊16戸、堤防破堤73箇所をはじめとした被害があった。<①>
大正3年	1914	8月14日	朝少雨、後晴、曇シ、荒川洪水四合水なり			
大正3年	1914	8月29日	昨夜来雨降り、好湿なり、午後より東北ノ暴風雨トナリ、夜ニ入り益強ク晝ニ至ル			8月28～30日、台風による暴風雨。県下では大里郡などで破堤し、死者13人、住家の全壊44戸、半壊47戸、堤防破堤159箇所等の被害があった。<①>
大正3年	1914	8月30日	半晴、風吹、荒川洪水前回ヨリ大なり			

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記載から分かる情報）
大正3年	1914	9月14日	昨夜来引続き強雨間断なく、十時過ヨリ非常ノ豪雨、庭一面川流をなし、崖崩れ等損害あり、夜ニ入風加リ曉ニ到ル			9月13～14日、台風による暴風雨。県内の雨量は浦和の278mmが最も多く、河川は増水して8月の被害場所から比企郡吉見村に浸水する等の被害があった。＜①＞
大正4年	1915	1月8日			今朝雪積ルコト七、八寸	
大正4年	1915	1月11日			昨夜来又雪降、積ルコト五寸許	
大正4年	1915	2月19日			朝来雪降、積ル三寸許、午後止ム	県下に大雪。19.5cmの積雪。＜②＞
大正4年	1915	2月27日			今朝雨トナル、雪積ル五寸許、大雪なり	
大正4年3月1日から大正9年7月31日まで欠本のため不詳						
大正9年	1920	9月30日	昨夜来雨降、午後より大雨、夜半ニ至り東北風加リ小荒なり			9月29日～30日、台風による大雨。被害は比較的少なかった。＜①＞
大正9年	1920	10月29日			夜十時頃ヨリ大雷鳴少雨あり、一時間余鳴動セリ	
大正9年	1920	12月7日			昨夜来少雨、今朝雪トナル、初雪なり、積量七、八寸、近來初雪トシテハ大雪なり	
大正9年	1920	12月20日		朝地震あり		
大正9年	1920	12月31日			朝来雪降、午後二時二寸許積ル	
大正10年	1921	1月1日			昨夜雪止ム、積ルコト五寸許	
大正10年	1921	2月3日			正午頃ヨリ雪降トナリ、終夜風雪積ルコト八寸計リ	
大正10年	1921	2月14日		正午少し過地震あり		
大正10年	1921	3月28日			昨夜来雪降、今朝積ルコト三寸余、八時過盛ニ積レリ	
大正10年	1921	4月3日	十時頃より南風雨降、小嵐トナリ、夜ニ入り益激しく払曉止ム			
大正10年	1921	4月6日			前八時四十分浅草大火	
大正10年	1921	9月4日	午後より雷雨、六時頃より大雨大降近來ノ大雨なり			
大正10年	1921	9月8日	昨夜来大雨、午前暴風雨トナル			9月8日、台風による大雨。県下では農作物に被害があった。＜①＞
大正10年	1921	9月25日	午後四時ヨリ風雨、小嵐なり			
大正10年	1921	12月8日		夜九時半近來ノ大地震アリ		龍ヶ崎付近 21時31分（経度：140° 02' E、緯度：36° 0' N、規模：M7.0）。＜③＞ 熊谷の発震時は21時31分47秒。＜①＞
大正10年	1921	12月29日		夜十一時地震有之		
大正11年	1922	1月1日			昨夜来雪降、今朝積ルコト二寸許	
大正11年	1922	1月14日			正午鳴動アリ、アサマ山フン火ノ由	
大正11年	1922	1月15日			今朝雪積ルコト五、六寸	
大正11年	1922	1月19日			曇リ雪止、積ルコト八寸許リ	
大正11年	1922	1月30日			今朝雪積ルコト二寸許リ	
大正11年	1922	2月16日	引続き雨降、夜ニ入り風雨トなり、竹山ノ垣崩壊サル			
大正11年	1922	3月7日			昨夜来雪降、本日積ルコト三寸	
大正11年	1922	4月26日		午前十時過大地震アリ十分間フレル、三十年来ノ大地震ノ由、被害ナシ		浦賀水道付近 10時11分（経度：139.75° E、緯度：35.2° N、規模：M6.8）東京湾沿岸に被害あり。＜③＞ 熊谷の震度は4。＜①＞
大正11年	1922	8月24日	朝来暴風雨、午後三時頃迄止マス			8月23～24日、台風による暴風雨。県下では全般に被害が発生し、死者4人、負傷者1人、住家全壊2、半壊12、堤防破壊21箇所等の被害があった。＜①＞
大正11年	1922	8月26日	大雨暴風			
大正12年	1923	1月25日			昨夜来雪降、終日止マス、日暮積ルコト五寸許リ	
大正12年	1923	2月7日			曇リ、午後ヨリ雪トナル、日暮三寸計積リ	7日10時頃から雪が降りだし、時々強く降って8日昼過ぎに止む。浦和で24cm、熊谷で17cm、秩父で36cmの積雪が確認されている。＜①＞
大正12年	1923	2月8日			曇リ、昨夜中雪降り今朝積ルコト尺余、近來ノ大雪なり	
大正12年	1923	4月6日			今朝雪積ルコト三、四寸、近來ノ珍雪なり	5日午後より6日朝まで雪、5.6cmの積雪。＜②＞
大正12年	1923	6月1日		夜一時頃地震二回あり		
大正12年	1923	6月2日		前八時地震あり		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
大正12年	1923	9月1日		朝来風雨荒模様、午前十一時四十分俄ニ大地震揺り廻り十四回あり、本堂壁二間崩壊全部ヒビ入り、花瓶大位牌タタル損害多大なり、墓地石碑三分ノ一タラレ地福大半タタル、鎮守ノ鳥居崩レ、新倉ニテ二、三家屋崩レシ由、此夜警戒ノ為メ消防夫繰出ニテ終夜警戒、地震ト同時ニ東京方面大火事夜ニ入り益盛なり、焼失、本郷、下谷、神田、日本橋、京橋、本所、深川、大半焼失ノ由		関東南部（関東大地震） 11時58分（経度：139° 08' E、緯度：35° 20' N、規模：M7.9）。<①、③> 大正12年10月「震災罹災状況調」<⑤>によれば、新倉村で全壊1、半壊1、白子村で全壊2の被害が生じたとされる。また、非住家でも白子で1、新倉で6の全壊があり、死傷者は白子で3人、新倉で2人とされる。<①>
大正12年	1923	9月7日		夜十一時過地震あり		
大正12年	1923	9月14日	朝より豪雨			
大正12年	1923	9月27日		地震三回あり		
大正12年	1923	10月12日	九時頃豪雷雨鳴アリ			
大正12年	1923	11月22日		前一時過二回地震、十二時前一回アリ		
大正12年	1923	11月23日		午前十一時地震あり		
大正13年	1924	1月15日		朝六時激震あり、本堂大位牌投ダサル		丹沢山付近 5時50分（経度：139° 03' E、緯度：35° 20' N、規模：M7.3）<②、③>。 強い地震を確認したが、県下では壁に亀裂が生じた程度であった。<①>
大正13年	1924	1月27日			昨夜より雪降今朝三、四寸積ル	
大正13年	1924	2月2日			昨夜来雪降、午後迄三寸計積ル午後止ミ曇リ	
大正13年	1924	5月25日			午後四時頃雨交ノ雹降、多少損害あり	県下で降雹あり。秩父では強雷もあつた。<①>
大正13年	1924	5月31日		夜九時ヨリ十二時過三回ノ小地震あり		
大正13年	1924	6月6日			桶太方ニテボヤあり大騒セリ	
大正13年	1924	6月18日			昨夜雷鳴あり、戸障子大ニ振レル、電灯消エ	
大正13年	1924	7月4日		朝六時過地震あり		
大正13年	1924	7月13日		夜二時地震二回アリ		
大正13年	1924	7月29日			夜十二時過百向醤油屋肥小尾焼失	
大正13年	1924	8月13日		夜三回小地震あり		
大正13年	1924	8月26日	雨天、正午頃より豪雨日暮ニ至ル、近來ノ大雨なり			

正誤表

『和光市デジタルミュージアム紀要』第 1 号（平成 27 年 3 月 13 日発行）の本文中に誤りがありましたので、下記のとおり修正いたします。

- 25 頁右段下から 2 行目
（誤） 3 まとめにかえて
（正） 5. まとめにかえて

- 26 頁左段上から 27 行目
（誤） 最後となりましたが、
（正） 最後となりましたが、